



三重県立木本^{きのもと}高校 英語科
山口菊夫 + 川上真由子

経験や立場が違うからこそ 協働は豊かなものになる

ICTの活用で
長年の理想の授業に迫る

山口 50歳を過ぎて「理想の授業の実現にはICTが必要だ」と感じました。授業スタイルを変えることに不安がなかったわけではありませんし、独力では限界があるので、昨年度、同じ学年と一緒に担当している川上先生に「一緒にやらないか」と持ち掛けたのです。突然の話に驚いたでしょ？

川上 山口先生の授業は私にとっては大きな目標の1つでしたから、その先生が更に大きな挑戦をすることが驚きであり、刺激を受けました。私は大学時代にICTの教育的利用について触れる機会があり、興味を持っていましたが、機械は苦手ですし、1人で始める勇気ありませんでした。そのため、ありがたいお誘いでした。

山口 ICTというツールを使って何をを目指すのか、ほぼ毎日、1年程掛けて2人で検討しました。理想の授業や育てたい生徒の姿を随分語り合いましたよ。

川上 はい、自分の授業観や指導観のベースが出来ていくのを感じました。

山口 これまで私が目指してきたの

は、生徒全員が英語を使うことを楽しみながら、大量のインプット・アウトプットを経験する授業です。板書やプリントが中心の授業は、インプットの量に限界がありますし、生徒の顔が下を向きがちになるなどの課題がありました。そこで、ICTの活用で、テキストを良く展開し、生徒の状況が把握しやすい授業を目指したのです。

川上 私はICTの利点は、「生徒の興味を引くこと」と限定的に捉えていました。山口先生と指導を構築する中で考えが深まりました。以前は重要なセンテンスのみを板書していましたが、読解させる英文全文をスクリーンに映し出して指導すると、生徒が前後の文章との関係を意識することが期待できます。また、板書の時間を減らせるので、その分、言語活動の時間を増やして、挙手や発言など、生徒が授業に参加する機会を更に確保していきたいです。

山口 教材づくりには手間が掛かり、授業の展開はスピーディーなので、これまで以上に気が抜けません。それでも、突き刺さるような生徒の真剣なまなざしと集中力には、毎回感動を覚えます。

協働によって視野が広がり
スムーズな授業改善が実現

もともと私はプログラミングが趣味で、技術面だけでいえば、独力でも授業へのICTの導入は可能だったかもしれません。しかし、1年間の取り組みを振り返ると、若手である川上先生ならではの生徒の目線に立った発想で随分と視野を広げられましたし、協働によって責任感を分かち合ったことで、スピーディーに授業改善を進められました。私と川上先生とはかなり年齢差があり、生徒への接し方や指導法は異なりますが、実践を通して授業づくりの理念を共有できました。今後は、川上先生にも教材開発に取り組んでもらい、ICTを利用した授業づくりに更にまい進してほしいと思います。



三重県立木本高校
山口菊夫 54歳

やまぐち・きくお 教職歴27年。同校に赴任して8年目。教務主任。英語科。三重県立伊賀高校（現・あけぼの学園高校）、和歌山県立新宮高校などを経て、木本高校へ。

三重県立木本高校

◎前身は、1920（大正9）年南牟婁郡立高等女学校。熊野市東部に位置し、近辺には「七里御浜」「鬼ヶ城」など世界遺産登録の名所が多数点在する。長らく普通科・商業科・家政科があったが、1995年に普通科・総合学科に再編して新たなスタートを切った。2012（平成24）年に普通科に文理コースを新設し、国公立大や難関私立大の志望者への指導を強化している。

◎設立 1948（昭和23）年 ◎形態 全日制／普通科・総合学科／共学 ◎生徒数 1学年約190人

◎2015年度入試合格実績（現浪計）

国公立大は、お茶の水女子大、名古屋大、三重大、首都大学東京、大阪府立大などに18人が合格。私立大は、青山学院大、明治大、早稲田大、龍谷大、立命館大、関西学院大などに延べ116人が合格。

◎URL <http://www.mie-c.ed.jp/hkimot/>



**若手とベテランの視点の違いが
深みのある実践を生み出す**

川上 ICTによって、授業でやりた
いこと、出来ることの可能性が広が
りました。でも、教材づくりを山口先生
に頼ったり、機器の操作に戸惑うこと
があったりと、課題も残っています。

山口 課題があるのは私も同じです。
私は、授業内容が高度になるあまり、
生徒を置き去りにしそうになって、「し
まった！」と反省することがあります。
分からない生徒をとことん支えようと
する川上先生の指導を見て、教師とし

ての原点を思い出させてもらっている
んですよ。2人の視点の違いによって
実践に深みもたらされていると思い
ます。

川上 今は山口先生の真似をすること
で精いっぱいですが、行く行くは自分
の強みを生かせるような形でICTの
活用法を模索したいと思います。

山口 50歳を超えてからの挑戦を通し
て、教師はいくつになっても理想を追
究し続けられることを実感しました。
現時点で授業の完成度はまだ8割目。
これからも知恵を出し合い、私たちの
頂上を目指しましょう。

**英語に前向きな気持ちで臨み
卒業後も学び続ける生徒を**

本校がある地域は外国人と接する
機会が少なく、英語との接点は授業
だけという生徒がほとんどです。つ
まり、英語へのイメージは授業で決
まります。そのため、授業に楽しい
イメージを持ってもらうこと、そし
て、知識だけではなく「学び方」を
習得させることを大切にしていま
す。その手法として、私はICTの
有効性を実感しています。山口先生
には、初任の頃から指導していただ
いていますが、教師歴4年目を迎え、
そろそろ自分なりの指導法を考える
時期に来ていると感じます。英語が
苦手な生徒に英語の楽しさを伝える
指導や、機械が苦手な教員でも導入
しやすいICTの教材づくりなどに
取り組んでいきたいです。



三重県立木本高校
川上真由子 29歳
かわかみ・まゆこ 教職歴3年。同校に赴
任して4年目。2学年担任。英語科。